

言葉化石・アイヌ語地名は「縄文の地名」

門田英成 (アイヌ地名懇親会)

はじめに

地名は『言葉の化石』とも言われています。
私たちの「アイヌ地名懇親会」は、北海道だけでなく、沖縄にもある「全国の地名」をアイヌ語で読み解く、という集まりです。

「アイヌ語地名」は、縄文時代に名付けられた地名です。
全国に残る、縄文の『言葉の化石』を発掘し、解き明かそうというものです。
それは同時に、日本語のルーツにつながる、と考えています。

調査方法

(1) 地名解明の方法

- 定義** 「アイヌ語地名」とは、アイヌ語で読み解け、地形等と一致する、地名。
- 前提(大前提)** ①地名は『言葉の化石』である。
②アイヌは縄文人の直系である。
- 仮説(小前提)** アイヌ語は、縄文の言葉である、とする。
- 結論** ゆえに、アイヌ語地名は、「縄文の地名」である。

(2) 調査「アイヌ語地名」

①「平」地名 (平が崖)

北海道の札幌市、赤平市に「平岸」地名がある。いずれも、川に沿って続く長い崖が続く、崖の岸。
アイヌ語では、「崖」は「ピラ」pira といわれる。沖縄でも、「平」は、「崖」の意味で使われている。

a. 全国の「平」地名

「平」地名の半数は、崖、傾斜地である。

調査結果：120(100%) うち、平坦地 48(40%)、崖、傾斜地 66(55%)、他 6(5%)

(実地調査：東京都、大津市、大阪府、神戸市、岡山市、福岡市、高松市、福岡市、熊本市)

b. 全国の崖『ピラ pira』の呼び方

(アイヌ語)	(東北)	(鹿児島)	(宮古島、八重山)
ピラ [㊦]	ファイラ [㊦]	ヒラ [㊦]	ピラ [㊦]

c. 日本列島の南北両端に日本語最古の言葉が残る。

- 「P音」は、日本語最古の音であろうといわれている。
- 古い言葉ほど日本列島の南北両端に残っているという「方言圏論」を示している。
- 日本列島の南北両端で音韻変化も示している。

㊦ピラ pira→㊦ファイラ fira→㊦ヒラ hire (音韻変化 P→F→H)

②「ナイ」「ベツ」地名

「ナイ」「ベツ」は、アイヌ語で nay, pet(川の意)

「ナイ、ベツ」地名は、奥州の白河の関以南にはなく、本州以南にはアイヌ語地名はない、とされてる(白河の関以南説)。しかし、下記の通り、全国、沖縄にもある。

川地名(総数約 13,000)のうち、「ナイ」「ベツ」地名(全国 1,200)の割合

a. 沖縄県 8.1%、 b. 全国(北海道除) 2.5%、 c. 北海道 31.9%

③. 沖縄にもある、北海道『アイヌ語地名』

- | | | |
|------------|-------------|----------------------|
| 1. 平内 | pira-utur | 崖の間 |
| 2. トケシ | to-kes | 海尻 |
| 3. 烏帽子岳(山) | e-pesi | 頭が岩崖(全国にあり) |
| 4. 久慈 | kus | 川(岩手県にも)、 |
| 5. 樽舞 | taor-oma-i. | 川岸の高いところ(〈そこに〉ある・もの) |

3. 結果と考察

(1) そもそも、前提は成り立つか

a. 言語年代学では、基礎語彙は1,000年間に平均して81%保持(スワデシュ)、地名年代学では、地名は概ね1,000年に90%残るとされている。

したがって、地名の寿命は、6~7千年は耐えられ、縄文時代まで遡ることが出来る。

b. 「アイヌの人たちは、縄文人ゲノム約70%を受け継ぐ」

昨年19年5月13日、「縄文人の全ゲノム解読」(国立科学博館)

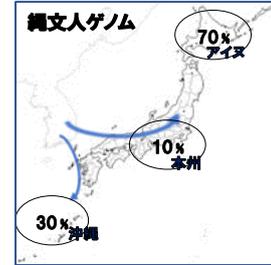
縄文人ゲノムの受継ぎ(図1)

a. アイヌ約70%、b. 沖縄約30%、c. 本州10%

以上より「地名解明の方法」の前提である、

①地名は『言葉の化石』、②アイヌは縄文人の直系、は成り立っている、といえる。

(図1) 縄文ゲノム分布



(2) 調査結果

a. 古い言葉「P」音が日本列島の南北両端に残っている。(図2)

b. 古い言葉「P」音の音韻変化も示している。(図2)

c. 北海道、東北以外は、アイヌ語地名はない(白河の関南限説)とされているが、「ナイ・ベツ」(川)地名をみると、全国にもあり、沖縄までにもある。

以上は、「ナイ・ベツ地名」(図3)は「縄文人ゲノム」(図1)と同様の分布状況(日本列島の南北両端に多く残る)を示している。

(図2) ヒラ 地名 分布



(3) 考察

アイヌ語は、「縄文の言葉」

2万年前頃には、ほぼ現在に近い地形の日本列島がつくられ、1万6千年前に縄文時代が始まり、縄文文化が1万3千年続く。その間、大陸から分離された日本列島で、文化も共有化され、共通する言葉も育まれたと、考えられる。

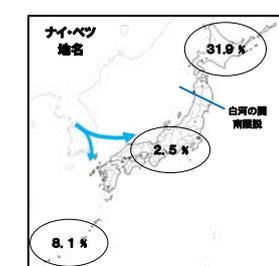
「縄文化的同質性が見られ、…『縄文語』を共有していたこと推測れる」(瀬川拓郎)

3千年前に大陸より大量の人が渡来、弥生時代が始った。そして現代人に繋がる弥生人が誕生し、縄文人は、日本列島の南北両端に、北海道のアイヌの人々に70%、沖縄の人々に30%受け継がれている(顔形も似ている感じです)。(図4, 3(2)結果)

閉ざされた北海道で、縄文を純粹に受け継いで来たのが、アイヌの人とすると、縄文時代話されていた言葉もアイヌ語に受け継がれたと考えられる。

つまり、アイヌ語は、「縄文の言葉」である(図5)。

(図3) ナイ・ベツ 地名 分布



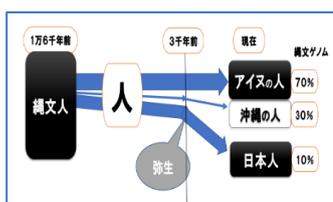
(結論)

アイヌ語地名は、「縄文の地名」である

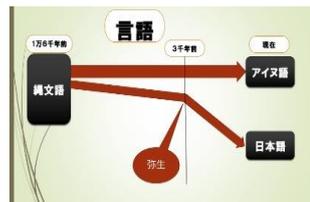
以上より、「ひら(平)」「ナイ・ベツ」地名は、アイヌ語で読み解け、地形とも一致し、全国、沖縄にもある「縄文の地名」である。ゆえに、アイヌ語地名は縄文語地名である。(図6)

したがって、日本語とアイヌ語は、『縄文の言葉』を祖語として共通の起源をもつ、といえる。つまり、アイヌ語地名は、日本語のルーツにつながるものである。(図5)

(図4) 人



(図5) 言葉



(図6) 地名

